えりも町議会

議会だより

No.５９
令和８年１１月１日



ヒュッゲの森で秋祭り

９月27日（日）、中岡俊子さんが代表を務める森の保全団体「森の歩人（ほびっと）」が、庶野の山中で「えりも森の秋祭りinヒュッゲ」を開催しました。

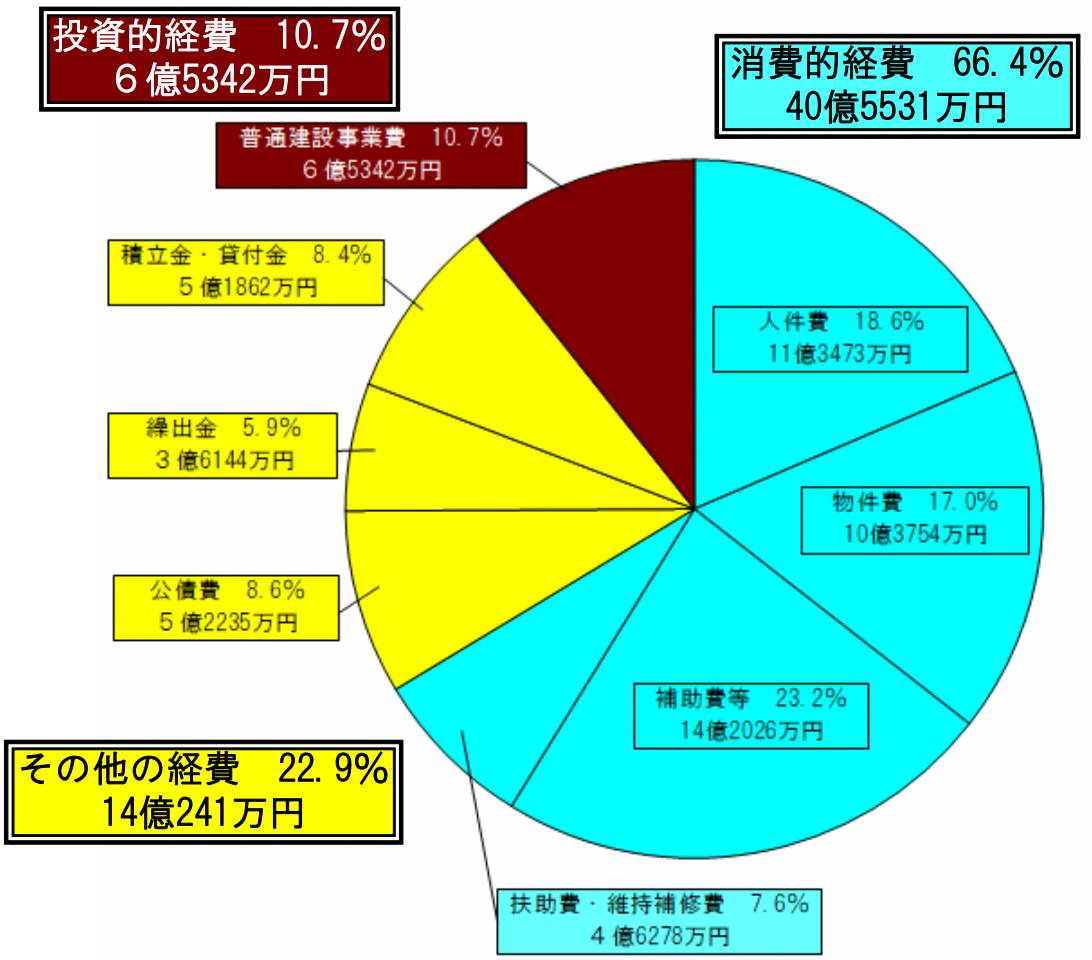
来場者は小鳥のさえずりや小川のせせらぎに包まれながら、段ボールアート、小枝を使った作品造り、虫探し等を体験。また、森の音楽会では、馬頭琴、和太鼓、サックスアンサンブル、フォークソング等の演奏を楽しんでいました。

※「ヒュッゲ」とは、デンマーク語で居心地の良さ・あたたかな時間を表す言葉

目　　次

Ｐ２～３　令和７年度　決算報告
Ｐ４～５　決算特別委員会質疑
　　第５回定例会
Ｐ６～８　一般質問　５名６件
Ｐ９　政策要望書をまちへ提出
Ｐ10　この人に聞く
　　地域おこし協力隊
　　山口　　耕（やまぐち　こう）さん

令和７年度歳出61億1114万円　前年度比５億3124万円の増



９月16日から２日間にわたり開かれた第５回定例会では、令和７年度一般会計決算、および４特別会計、２企業会計７件を審議し、すべて原案通り認定しました。

歳出のあらまし

一般会計の歳出は、前年度と比較し５億3124万円の増となっている。

増加の主な要因は、人件費6697万円、公債費で5222万円、物件費で8821万円、補助費で２億9644万円が増加している。

これらの主なものは、ふるさと納税返礼品等に係るものである。

また、普通建設事業費で6902万円が減少しているが、灯台公園トイレ新築、高校通り線改良事業完了によるものが主である。

令和７年度　ふるさと納税寄付金

前年度比　１億7409万円の増

○ふるさと納税寄付金の推移（過去３年）

年　　度	寄付金額	経　　費	差　　引
令和７年度	７億8783万円	４億3260万円	３億5523万円
令和６年度	６億1374万円	３億　89万円	３億1285万円
令和５年度	４億2166万円	２億 969万円	２億1197万円

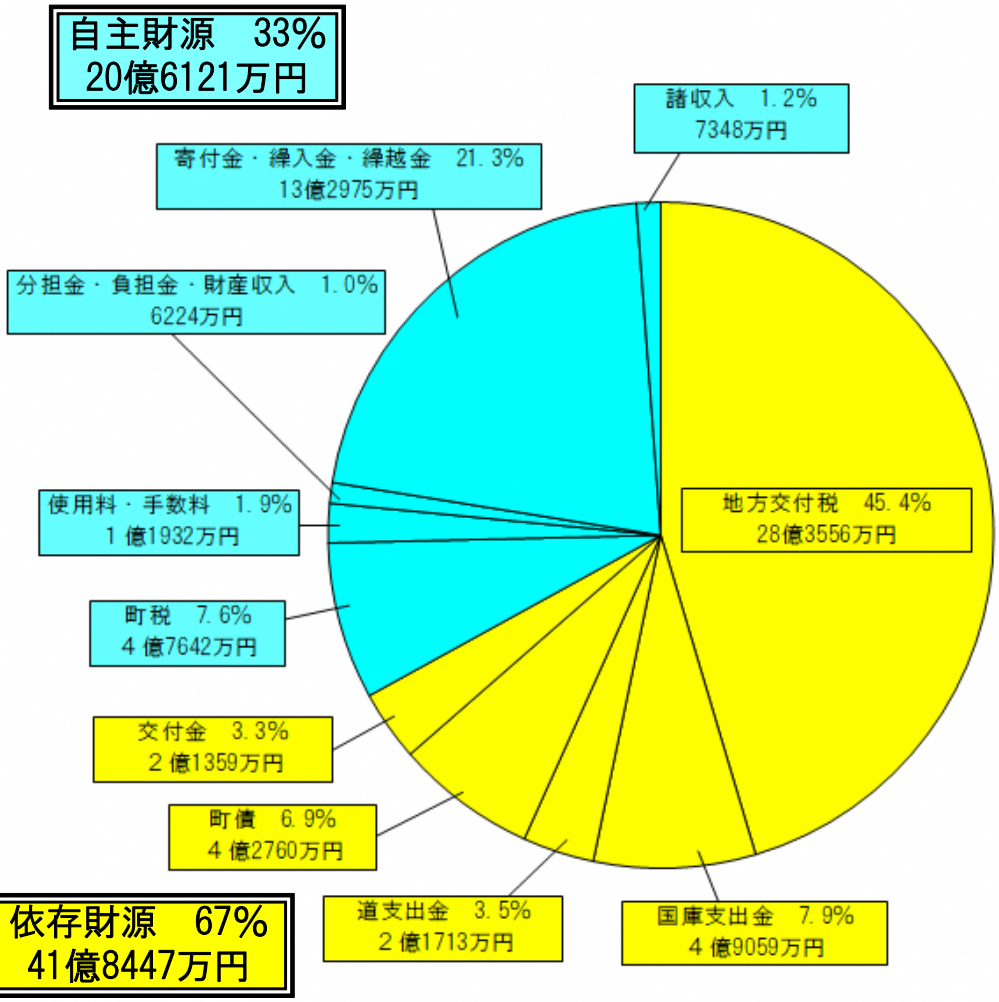
○積立金の状況と地方債発行残高の状況（過去３年）

年　　度	積　立　金	地方債発行残高費
令和７年度	35億6032万円	50億2213万円
令和６年度	34億9499万円	50億8850万円
令和５年度	34億1744万円	51億6675万円

令和７年度歳入 62億4568万円 前年度比 ５億6126万円の増

決算特別委員会の委員長は
竹内孝文議員
が務めました





● 決 算 総 括 表

会　計　区　分	歳　入	歳　出	差引残高
一　般　会　計	62億4568万円	61億1114万円	1億3454万円
国民健康保険特別会計	9億1920万円	9億1643万円	277万円
診 療 所 特 別 会 計	3億7907万円	3億7675万円	232万円
介 護 保 険 特 別 会 計	5億1392万円	4億9441万円	1951万円
後期高齢者医療特別会計	8264万円	8205万円	59万円
小　計	18億9483万円	18億6964万円	2519万円
総　計	81億4051万円	79億8078万円	1億5973万円

○ 公 営 企 業 会 計

公 営 企 業 会 計	歳　入	歳　出	差引残高
簡 易 水 道 事 業	1億3871万円	1億4960万円	▲1089万円
下　水　道　事　業	1億6563万円	1億6621万円	▲58万円
合　計	3億 434万円	3億1581万円	▲1147万円

歳入のあらまし

一般会計の歳入は、前年度と比較し５億6126万円の増となっている。

主な収入増としては、町税で4478万円、国庫支出金7760万円、地方交付税で１億3672万円、寄付金のうち、ふるさと納税で１億7409万円である。

減少しているのは、地方特例交付税1743万円、負担金で1916万円、諸収入で2444万円である。

この要因は、定額減税減収補填や分収造林事業等の減によるものである。

《質疑内容を抜粋し掲載》

令和７年度 決算特別委員会　質疑

ごみ処理の対応

質疑（橋本）

近隣町へのごみを運搬しているが、令和７年度の実績と今後の処分先、広域化の検討状況は。

また、ごみの減量化やリサイクルについて、改善策や今後の取り組みは。

答弁（町民生活課長）

令和７年度は、南十勝に６２６トン、様似町に２５３トン、中部に１４７トンのごみを運搬した。

広域化については、東部３町で協議する予定である。

減量化については、引き続き広報やチラシによる啓発に取り組む考えである。



年間約1000トンのごみが集められる「清掃センター」

大雨被害対策

質疑（橋本）

大雨による被害が年々増えているが対策や予防策は。

答弁（建設水道課長）

各地区からの要望や現地調査により危険箇所を把握し、改修・改善を進めるとともに、被害が予想される箇所の早期修繕に努めている。

質疑（髙松）

当町における豪雨や冠水に関するハザードマップの有無と、未作成の場合、今後の作成予定は。

答弁（企画課長）

来年度以降の作成に向けて準備を進めており、雨水出水の想定区域図についても、作成に向けて検討を進めているところである。

河川の維持

質疑（大場）

河口部分に土砂が堆積している河川が多く見受けられるが、土砂の除去や河口の拡幅を行う考えは。

答弁（建設水道課技術長）

河口部分の土砂堆積については、河川管理者と海岸管理者の双方が関係するため、関係部門と協議しながら対応を検討していく。

教員住宅の管理

質疑（橋本）

空き家となった教員住宅が増える中、解体費用も高額となっている。

民間への売却や改修による利活用も含め、今後の対応は。

答弁（学校教育課長）

周辺住宅に迷惑がかからないよう管理し、計画的な解体を進めるとともに、修繕にも対応していく。



長期間利用されないままの「教員住宅」

介護給付費

質疑（髙松）

前年度に比べて介護給付費、施設サービス分が大幅に増額となった理由と次期介護保険料への影響は。

答弁（保健福祉課長）

介護給付費の増額理由は、利用者が増えているためである。

次期介護保険料は、これまでの情報整理とニーズ調査等の結果を踏まえ、過大負担とならないよう協議会で慎重に検討していく。

下水道事業

質疑（大坂）

人口減少などにより下水道の水洗化率が低下しているが、水洗化率向上に向けた周知は。

また、下水道管の老朽化による陥没事故を防ぐため、今後の調査や改修工事の予定は。

答弁（建設水道課長）

水洗化率の向上に向け、広報等による周知を強化する。

下水道管の耐用年数は50年以上であり、供用開始から20年のため、大規模な調査は行っていない。

今後は老朽化を見据え、計画的な修繕を進める考えである。



9月16・17日 第５回定例会

補正予算

◎令和８年度 一般会計（歳出）

・市場機能維持支援金　５００万円
漁獲量減少により販売手数料が悪化しているえりも漁協の市場機能維持のため補助金を交付

・大和地区街路灯更新工事　２５０万円
大和地区で故障している街路灯を更新する費用

・中核病院機能維持補助金　２０５万６千円
浦河赤十字病院への運営補助金

・塵芥処理費　２３３万円
施設の修繕費用が不足するため増額

・中山間地域等直接交付金　２２４万１千円
対象面積や交付単価が変更されたため増額

・住宅改修工事等補助金　５００万円
申請件数の増加が見込まれるため増額

・道路維持費　１４５万２千円
５月及び７月の大雨により維持補修費に不足が見込まれるため増額

・小学校施設維持費　２８４万９千円
各小学校の設備に故障が発生し修繕費用の増加が見込まれるため増額

・郷土資料館費　３０万円
館内の消耗品の購入と照明器具やカーペット等を更新する費用

監査委員、決算審査結果を報告

えりも町監査委員　小関　孝雄
〃　上野　陽司

《決算審査意見書の中から一部抜粋し掲載》

○財政の推移及び収支の状況

令和７年度の決算額は、前年に比べて歳入9.9％、歳出9.5％がそれぞれ増加している。
要因として、歳入は、地方交付税やふるさと納税寄付金額の増、歳出は、目黒地区緊急避難施設関連工事、橋梁長寿命化及び新浜地区の団地・教員住宅新築事業等による影響と考えられる。

○収入未済額について

令和７年度末の収入未済額は8866万円であり、前年度と比較すると320万円、3.5％の減となった。
また、各特別会計を含めた収入未済額は１億8584万円であり、1840万円、9.0％の減となっている。
※収入未済額とは、予定される収入金額のうち、期限までに納入されなかった金額

○総　括

今後の行財政運営においては、さらなる人口減少や社会情勢の変化を見据え、事務事業の見直し及び公共施設等の長寿命化や集約化を計画的に推進し、政策的な経費について優先順位をつけるなど、より一層、効果的な予算の執行を求める。

問 地域交通運行の進展状況は

答 実証運行の実施を来年３月頃に予定



かんだおさむ
神田修議員

【神田】 町は以前に、ＪＲ北海道バスの減便に伴い「地域交通対策を早急に実行する」と答弁したが、その後の進展が見えない。

交通空白地の解消に向け、福祉有償運転者講習会の開催や受講費用の助成、交通車両２台の購入を予定しているが、現在の進捗状況は。

答弁 町はバス・タクシー事業者に協力をお願いする「事業者協力型」の公共ライドシェアを検討しているが、事業実施には町民や関係者などで構成の「公共交通会議」を開催し、運行方法・区域・料金などを話し合う予定で準備を進めている。

すでに運行車両の発注を終え、来年３月に納車の予定で、納車後に道路運送法の手続きを要することから、実証運行は３月か４月を予定としている。

【神田】 ＪＲバスの減便や路線廃止が進む中、運行維持のため広尾町とえりも町が毎年７００万円ずつ支出している。

ＪＲバスや民間交通事業者等と十分に協議し、知恵を出し合うことで経費の節減も可能と考える。

一日も早く試行運行などを実施し、地域交通の課題を解消する考えはないか。

答弁 庶野・広尾間は、委託運行で路線を維持している。

住民生活に欠かせない公共交通は、国や自治体の支援がなくては、成り行かない状況であり止むを得ない支出と考える。



広尾・えりも両町で維持費を負担し運行されている広尾・庶野間のＪＲバス

問 えりも岬・庶野保育所統合の考えは

答 現時点での統合は考えていない

【神田】 中央保育所は、令和９年度から認定こども園に移行予定で、職員を募集しているが現在の状況は。

応募が不振な場合、現有職員での対応が余儀なくされるのでは。

答弁 ５月から募集を継続中であり、現時点では会計年度任用職員１名の応募がある。

【神田】 入所児の減少や老朽化した施設の維持管理費の増加、さらにえりも岬地区幼児のえりも岬保育所と中央保育所への分散通所などを考え合せると、町内すべての保育所の早急な統合が必要と思うが。

答弁 両保育所ともここ数年は10名以下の入所である。

また、施設の老朽化も進み維持管理への対応が増加しているのが実情である。

認定こども園の開設にあたり、地域住民や保護者との地域懇談会を開催し、今後の在り方などを聞いているが、庶野地区は「統合せず現状維持」、えりも岬地区は「可能な限り現状維持」との結論に至っている。

保育所は、地域の子育てを支える重要な場であり、効率性のみの判断によらず、実際に利用している子どもや保護者、地域の意見を踏まえる必要があると考え、現時点での認定こども園への統合は考えていない。



老朽化が進む「えりも岬保育所」



おおさかしょうきち
大坂庄吉議員

問 町内の管理されていない空き家対策は

答 危険な空き家の解体費用の補助も含め検討する

【大坂】　人口減少や少子高齢化に伴い、町内で空き家が増加している。

管理されていない空き家は、防犯や火災、倒壊などの危険があり、地域住民の安全を脅かすおそれがある。

また、老朽化が進むと再利用に多額の費用がかかることも課題である。

町内の空き家の現状とこれまでの対策と今後の取り組みは。

答弁　町では、危険と思われる空き家8件を把握し、所有者への管理改善を求めている。

令和5年度に空き家等対策計画を策定し、適正管理や利活用、危険な空き家への対応を進めているが、所有者との連絡や経済的事情などにより、改善が進まないケースもある。

今後は、空き家情報登録制度の掲載内容を充実させ、流通・利活用を促進するとともに、危険な空き家の解体費用に対する補助制度について、国の交付金の活用も視野に入れ、令和9年度以降の実施に向けて検討を進める考えである。



近隣住宅の被害が心配される危険な空き家（写真はイメージ）



さがなおき
嵯峨直樹議員

問 えりも高校の今後の方策やビジョンは

答 令和14年度までに方向性を示す

【嵯峨】　道立鹿追高校では、令和4年度から一般社団法人「地域みらい留学」制度を活用、学生寮やシェアハウスの運営費用などを負担し、全国各地からの入学者の受け入れを支援している。

当町では今後、児童生徒数の減少が進み、えりも高校の2間口の維持も難しいと考える。

存続に向けてどのような方策やビジョンを描いているか。

答弁　「えりもの子はえりもで育てる」を基本理念として、

①教育活動の質を高める

②生徒に対して最大限の支援を行う

③一人ひとりの進学・就職などの進路実現を図る

④町民と高校との関りをさらに深める

⑤高校の存続に関わる今後の方向性に一定の目途を持って熟議を進める、ことと考えている。

また、令和12年度を目途に間口と教育課程の在り方について検討を進め、令和14年度までに一定の方向性を示すことが必要と考える。



どのように存続させるのかが課題の「えりも高校」

【嵯峨】　全国募集についてはどう考えるか。

答弁　募集のための経費や宿泊施設建設費など、さらに入学後の維持管理費や環境整備の負担など、多くの課題があり、単に生徒数確保の施策とすることは慎重にすべきと考えており、当町での全国募集はきわめて難しいと考えている。



たかまつすけひろ
高松亮裕議員

問 高校生までの医療費無償化を

答 来年度からの実施を検討

【高松】 今年6月時点で道内の約9割の自治体が、高校生までの通院医療費を無償化しているとの新聞報道があった。
当町では現在、中学生までの医療費は無償化されているが、高校生までの医療費無償化は実現されていない。
浦河・様似・広尾の近隣3町ではすでに無償化され、特に広尾町では町外から通学する生徒や下宿生も対象としている。
えりも高校への進学に与える影響も懸念され、早期に無償化すべきでは。

答弁 令和5年8月より中学生までの医療費を無償化し、子育て世代の負担軽減に努めてきた。

その後、医療費の動向や国保財政への影響を見極め、高校生世代へ拡大した場合の対象者数や必要財源についても推計し、継続して慎重に検討を重ねた。

近年、全道的にも支援策の拡充が進み、近隣町でも地域に応じた支援が行われている。

当町としても子育て支援の充実をはじめ、地元えりも高校への進学や定住促進の観点から、早期の制度拡充が必要不可欠であると認識している。

現在、来年度から実施できるよう検討を進めている。



町外から通う生徒も医療費助成の対象と掲載されている「広尾高校サポートプラン」



おおばふみひろ
大場文裕議員

問 商工業の事業承継に支援を

答 次年度から制度の運用を検討

【大場】 長年、地域の暮らしを支えてきた商店や事業所が、経営者の高齢化や後継者不足により廃業するケースもあり、町民の生活や雇用、地域の賑わいにも影響を及ぼす恐れがある。
町は、商工業者の事業承継や後継者不足について、どのような課題認識を持っているか。

答弁 商工業を将来にわたり維持していくためには、現在の事業者が安心して事業を続けられる環境づくりと、次の担い手を確保する取り組みを併せて進めることが必要と考えている。

【大場】 事業承継や新規創業、空き店舗の活用を支援する町独自の補助制度を創設する考えはないか。

答弁 事業承継や新規創業を後押しするうえで、一定の効果は期待できると考えている。

町として、関係機関とも協議しながら、次年度からの運用に向け、制度設計を行っている。

【大場】 商工会や金融機関と連携し、事業承継から新規創業、創業後までを一体的に支援する仕組みを構築する考えは。

答弁 事業承継を希望する事業者と後継者候補の相談、情報提供、事業計画の作成支援等を構築することは、今後の商工業の振興において重要であると考えている。

事業者が必要な支援を受けやすい環境づくりに努めたい。



空き店舗が目立つようになった「本町商店街」

議会として次年度の「政策要望書」をまちへ提出



大西町長に要望書を手渡す髙松議長（10月6日）

１．イベント時等の「キッチンカー」スペースの確保を

「えりもの灯台まつり」や「えりも海と山の幸フェスティバル」など、町内の各イベントは、各種団体の出店により賑わいを見せている。一方、他自治体ではキッチンカーの誘致が集客力や魅力向上につながっていることから、既存出店者と競合しないメニューや配置を調整し、キッチンカーの出店許可及び必要なスペースの確保を検討すること。

２．移住体験住宅の設置を

移住希望者の不安を解消し、移住後のミスマッチを防ぐため、実際の暮らしを体験できる「移住体験住宅」の整備が重要である。町内の空き家や活用率の低い公有住宅を利活用し、空き家対策や交流人口の拡大、定住化にもつなげるため、家具・家電・Ｗｉ-Ｆｉ環境を備えた「お試し住宅」を整備すること。

３．商工業者への支援を

空き店舗の増加や原材料価格等の高騰により、町内商工業者の経営は厳しい状況にある。国の補助制度は申請や要件のハードルが高く、活用しにくい面もある。地域経済の活性化と事業継続のため、「事業承継」や「新規就業者」を支援する町独自の柔軟な補助制度の新設を求める。

４．空き家解体に対して補助を

町内では、管理が行き届かない空き家が増加し、防災・防犯・衛生・景観などの面で、地域の生活環境を脅かしている。解体には多額の費用がかかり、所有者による自主的な処分が進まない要因となっている。空き家の解消と地域の安全・安心を確保するため、町独自の空き家解体補助制度を創設することを求める。

この人に聞く

えりも町地域おこし協力隊
山口（やまぐち）　耕（こう）　さん（39）



1987年、神奈川県生まれ。
早稲田大学在学中、海外生活を通じてスキューバダイビングに出会う。
卒業後は国内で就職するも、ワーキングホリデーで再び海外へ。
コロナ禍を機に帰国し、シュノーケリングガイドや水中写真家として活動。本年９月より、地域おこし協力隊としてえりも町に着任。

▼えりも町に来た経緯は

もともと海の生き物が好きで、野生のゼニガタアザラシの水中写真を撮りたいと思い、４年ほど前からえりも町に通うようになりました。

サケの遡上や豊かな海藻など、えりもの自然に魅力を感じるとともに、撮影を支えてくださった船長や地域おこし協力隊の前任者など、地域の方々とのつながりも生まれました。

そうしたご縁から、地域おこし協力隊として活動するお話をいただき移住を決意しました。

▼えりも町の印象は

北海道各地を訪れてきましたが、えりも町は独特の地形や自然環境が魅力的な地域だと感じています。

風が強いことは知っていましたが、実際に移住して暮らしてみると、その強さを改めて実感しており、自然の厳しさも含めて「えりもらしさ」だと思います。

また、地域の皆さんがとても親切で、これからの活動を通じて少しずつ恩返しをしていきたいと思っています。

▼現在の活動内容は

主に株式会社Ｋａｇａｙａｋｉ（かがやき）で、コンブボートクルーズの受付・案内や乗船ガイドなど、運営支援に携わっています。

また、写真や動画の撮影技術を生かし、ＳＮＳでえりもの自然や体験の魅力を発信するとともに、オリジナルグッズの企画にも取り組んでいきたいと考えています。

▼これからの目標や展望は

現在のコンブボートクルーズに加え、今年から始まった潮の引いた岩礁を歩く体験など、スキューバダイビングやシュノーケリングのガイド経験を生かし、海や自然をより深く楽しめる体験メニューの開発に取り組みたいと考えています。

また、写真や動画、オリジナルグッズなどを通じて、えりもを訪れるきっかけをつくっていきたいです。

▼町民へひとこと

えりも町に来てから、自然の魅力はもちろん、地域の方々とのご縁にも支えられていると感じています。

まだまだ学ぶことも多いですが、これまでの経験を生かしながら、地域に貢献できるよう取り組んでいきたいと思っています。

これからもよろしくお願いいたします。

「海の中でアザラシやアシカなどの哺乳類とコミュニケーションがとれた時はほんとにうれしい」と笑顔で話してくれた山口さん。今後のご活躍を期待します。（上野）



西オーストラリアで出合った「オーストラリアアシカ」

議員雑感

今年も残すところ２ヶ月を切りました。町民の皆様にとって今年はどんな年だったでしょうか。

えりもの基幹産業であるコンブ・秋サケは記録的な不漁となってしまいました。

さらには、物価・電気料・灯油・ガソリンも軒並み値上がりし、我々の生活を苦しめています。

暗いことばかりですが、食料品の消費減税など政府の打ち出す景気対策に期待したいものです。

来年は、丁未（ひのとひつじ）の年、「これまで重ねてきた努力が実を結び、穏やかに実りへと向かう」という意味があるそうです。

明るい希望を持って過ごしましょう。（嵯峨）

広報広聴常任委員会

委員長　竹内　孝文
副委員長　上野　陽司
委員　大坂　庄吉
中野　公浩
嵯峨　直樹
大場　文裕